

「地道に」「意識高めて」「地域と協力」「積み重ね」

700万点 横須賀市立鶴久保小学校

京浜急行の横須賀中央駅からバスで約15分。横須賀アリーナや陸上競技施設がそろった不入斗(いりやまず)公園に隣接するのが横須賀市立鶴久保小学校(丹治美穂子校長、児童602人)。このほどベルマーク累計700万点を達成しました。1962年にベルマーク運動に参加、2010年に600万点を達成してから8年間で100万点を集めました。



鶴久保小ではPTA厚成委員会18人が中心となり、ほぼ毎月1回活動しています。

年度初めに全児童に一覧表とマークを入れる封筒、厚成委員だよりを配布し、活動日に委員が全24クラスを回って回収箱に入れられた封筒を集めます。

集めたマークは切り揃え、卵パックを使って会社別に分け、透明の引き出しケースにまとめて保管し、年に2回集計してベルマーク財団に送ります。

近隣の町内会館やボランティアセンター、スーパーなど13ヶ所にも回収箱を置いています。かつてはマークが集まりすぎて集計が追いつかないという悩みがあったそうですが、今は年3回のボランティア参加日を設定、人数を増やして活動しています。年度初めに便りを通じて呼びかけ、各回15～20人ほどが参

加しているそうです。

給食の牛乳がテトラパックなので、すべてベルマーク点数に交換しています。



またインクカートリッジ用に学校の昇降口付近のホールに箱を置き、他の資源回収とともに常時入れられるようにしています。児童や保護者が持参し、箱がいっぱいになったら送るようにしています。

厚成委員会委員長の上嶋優子さんは「働いていたり、幼児を連れていたりする保護者が参加しやすいよう、キッズコーナーを設け、集まる時間を工夫するなど、少しずつ活動しやすくしていきたいです。ベルマークの仕組みや活動の楽しさをもっと知っていただき、これからも地道に集めていきたい」と話しました。



800万点 川崎市立高津小学校

「歴史も古く、地域の方々との交流も盛んなので、保護者の皆様をはじめ、様々な方のご協力を得て順調にベルマークを集めることができています」

神奈川県川崎市立高津小学校(高木朗校長・児童1028人)が、7月に800万点を達成しました。事前のアンケートに答えてくださったのはPTA副会長の重元千晶さん。小学生時代は児童会で卒業式の前日まで熱心にマークを集めていたそうです。



児童数1000人を超す大規模校の高津小のルーツは、学制が公布された1872年(明治5年)、地元にあった宗隆寺の寺子屋だそう。地域とのつながりは強力で、郵便局、信用金庫、保育園、生涯学習施設、酒屋さんなどに回収箱を設置してもらっています。

PTAの作業は学年単位。さらに仕分けなどをする平日係、自宅で集計する在宅係、まとめて合算する土曜集計係などに分かれます。取材した11月6日は3年生の保護者の平日係9人が集まりまし

た。仕分けが始まると、ガサガサと大きな紙が登場。広げてみると、なんとベルマーク一覧表を何倍にも拡大コピーしたものです。この上にマークを置いていくのが高津小流。仕分け後は在宅さんが持ち帰る「在宅セット」に入れます。

今年度のベルマークだよりの担当はPTA役員の福永理華さん。今までのおたよりを参考にしつつ「2回に1回はリニューアルするようにしています」と話してくれました。

集まったマークで、最近は体育館で使う大型扇風機を買ったそうです。高木校長は「学校が困っているときに、いつもいつも手を差し伸べてもらっています」と感謝の言葉を述べました。

「働いているお母さんも多いので効率化を図っていくのも大切」と重元さん。その一方で「開校150周年に向けて買いたいものを決め、目標にすれば、子どもたちも参加した気になるかも」と今後を見据えていました。



800万点 横須賀市立池上小学校

昨年度43万点余りを集め、神奈川県でダントツ1位の集票点数に輝いた横須賀市立池上小学校(高橋淳一校長、児童697人)。1961年の運動参加以降、マークを着実に集め続け、今年9月に累計800万点を達成しました。

JR横須賀線の衣笠駅から車で15分ほど。ホテルを鑑賞できる平作川や「しょうぶ園」など自然に囲まれた場所に同校はあります。学区が広いため、家用車の送迎で通う児童もいます。

5月のベルマーク運動説明会で体験発表して下さった、2017年度学級委員長の栗原(くわばら)美香さんと、副委員長の宮川美保さんにお話を伺いました。4年ほど学級委員を務め、同校のベルマーク運動を支えるベテラン。お二人とも「ベルマーク大好き!」と声を揃えます。もともと細かい作業が好きだそうで、マークが集まりすぎて作業が進まない時は、大きな袋にいっぱい、サンタクロー



スのように持ち帰ったりするそうです。

各教室に設置している回収袋に児童がマークを入れ、月1回の定例会でPTA学級委員が整理・集計します。作業には毎回22人の委員のうち約半数が参加し、切り直しと仕分け後にホチキスやテープで束ねて引き出しに保管。年2回財団に発送します。インクカートリッジは専用の回収箱が一杯になったら送ります。また、テトラパックは給食の牛乳パックを児童が洗い、調理員が倉庫に保管します。ベルマーク預金では毎年、竹馬ラックや相撲マット、玉入れ用カラー玉など、児童に役立つものを購入しています。

「ベルマーク強化月間」を設け、お便りを通じて呼びかけるほか、近隣のスーパーやコンビニ、郵便局や銀行などにも回収箱を置いて地域の協力も仰いでいます。今後はもっと協力してくれる店舗数を増やしていきたいそうです。

栗原さんと宮川さんは「ベルマーク収集への意識を高めたい。財団見学なども企画してさらに盛り上げていきたいです」と意気込みを語ってくれました。

900万点 豊中市立大池小学校

1964年からベルマーク運動に参加している大阪府の豊中市立大池小学校(児童数706人)の累計点数が7月に、府内で初めて900万を超えました。9年で100万点を積み上げました。



ベルマークの担当はPTA施設委員会の12人。春休みと夏休み以外はほぼ月1回、学校に集まっています。年間の活動日が決まってい作業内容もわかりやすいことから、毎年人気が高く、抽選でメンバーを決めています。今年の競争率は約8倍だったそうです。

月初めに全校児童に回収用の封筒を渡し、ベルマークとインクカートリッジを入れて提出してもらいます。他に学校の玄関にも手作りの大型の回収ボックスを設置しています。さらに周辺の電気店やスーパー、郵便局、コミュニティーセンターなど7カ所にも回収箱を設け、月に1度、集めに回っています。

こうして収集したマークは施設委員会の活動日にベルマーク番号ごとに分け、メンバーが分担して自宅で集計。翌月の

活動日に持ち寄って財団へ発送します。

毎年10万点前後が集まり、子どもたちの意見も聞いて、一昨年は一輪車8台と全クラス分のボール、昨年は卓球台と大型整理台車を購入しました。渡辺浩校長も「大助かりです」と喜んでいました。

900万点達成について、施設委員長の今井友美さんは「積み重ねのすごさを実感します」。回収袋を毎月渡していることが「集めよう」との意識付けにつながっているのではないかと、とも。

「地域の協力も大きい」と話すのは副委員長の橋本道子さん。電器店が関係先にも呼びかけてたくさんのインクカートリッジを集めてくれたり、お年寄りがこつこつと貯めたマークを学校に持ってきてくれたり。「本当にありがたいです」。

いま力を入れ始めているのはウェブベルマーク。夏休み前に全家庭にチラシを配り、登録と利用を呼びかけました。今後もPRに努め、1千万点につなげたいと考えています。

